

# 2020年度(令和2年度)事業報告

2020年(令和2年)4月1日～2021年(令和3年)3月31日

## 1 概 要

令和元年12月以降、世界で猛威を振るってきている新型コロナウイルスは現在も衰えることなく、今年4月現在で2百余りの国で発症し、延べ感染者数は1億3千万人を超え、死者も3百万人に届く勢いとなっています。更には、変異ウイルスも現れ、予断を許さない状況となっています。この状況に歯止めをかけ経済を回復させるため、各国でワクチン開発が進み、接種が始まっているところです。

国内における新型コロナウイルスの状況は、今年4月現在で延べ感染者数は約50万人、死亡者数は約9千3百人で、治療中及び療養中の感染者数は合わせて2万5千人となっています。併せて、世界の感染状況と同様、変異ウイルスによる感染者も増加してきているため、医療もひっ迫し医療崩壊も起こしかねない状況となっています。当センターにおいては、会員の就業における感染防止対策として、マスクの配布や手指消毒液の備え付けをするとともに、就業前の検温の励行を徹底し、感染防止の意識高揚を図っているところです。

経済面では、感染症の影響によりGDPは昨年の4-6月期に大きく減少しており、中でも、自粛や休業により人為的に抑制された個人消費の下落が顕著で、景況感は一東日本大震災に比べ下落幅はより深くなりました。

しかし、4月発表の日銀短観では、大企業製造業がプラス5ポイントで、3期連続で改善し新型コロナウイルス感染拡大前の水準に回復しましたが、飲食店や宿泊などの非製造業は大企業でもマイナス1ポイントと小幅な改善にとどまっています。とりわけ、時短要請などで打撃を受けている宿泊・飲食サービス業は15ポイントの悪化となり、業種により回復に差が出ています。

さて、昨年度は「会員拡大」と「シルバーネットワーク事業」の2点を重点目標として取り組みました。会員拡大の年度目標数317人に対し325人と目標を上回る結果となりました。一昨年からは会員並びに地域の方の交流の場として事務所2階に卓球台を置き、センター事業の普及と会員のコミュニケーションを目的として取り組んできました。この間、一般の方にもご利用いただいていたことが、昨年12月以降会員限定へ移行したことにより、名誉会員として6名の入会をいただきました。

また、新入会員を2名以上紹介された方にはポイント表彰制度の対象としていますが、この度3名の会員が表彰の対象となり、会員拡大に大きな功績があったと感じています。

本年度より、新たな事業としてシルバーネットワーク事業に取り組みました。この事業は、地域の中で元気な高齢者が、支援を必要とされている地域の人を支え合う仕組み作りです。地域でのこの類の取り組みが様々な形で紹介されており、新年早々全国紙の特集記事として「支え合いあしたへ」と題して掲載がありましたのでその一部を紹介いたします。

大阪府内のとある団地の集会所を子供やお年寄りらが自由に交流できる「居場所」に模様替えして、宿題をしたり住人が寄付した絵本や漫画を読んだりできる取り組みを行うことにより、日常的に顔を合わせる仲間が増え、絵本の読み聞かせ会や健康講座などのイベントの開催へと発展し、そこに集う住民同士のつながりが増えて、支え合いの輪を広げる結果となりました。

また、少子化や若者の流出が続き、急速に高齢化が進んでいる地域で暮らし続ける高齢者を、誰がどのように支援していけばいいのか、課題と不安を抱えながらの「支え合い」に取り組んでいる地域の紹介がありました。そこは面積の9割以上が山林の集落で、高齢者たちが食料品の買い出しのため、地元の集会所に集まり、スマホを片手に4～5人がスーパーの陳列品を見ながら買い物ができるサービスをNPO法人が企画し、取り組んでいました。

このように、各地域で急激な高齢化や単身化で、互いが支え支えられるという関係無しには地域は成り立たなくなってきました。いかに支え合いを再構築できるかがその地域の未来のカギを握っていると言われていています。

このような考えから、本年度は中部ブロック内の町内会を主に取組みの内容について18町内会へ説明して回りました。その中から5町内会が事業について意向調査にご協力いただき、いずれの町内会も回答のあった約7割の方がこの事業は必要であると考えていることがわかりました。さらに、それぞれの町内会によって差はありましたが、必要であると感じておられる方の15～25%の方が協力してもいいと名前を記入いただいています。

しかし、意向調査はできたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、この結果をもとにしたそれぞれの地域での話し合いの場が持てなくなり、中断することとなりました。ご協力いただいた方には、その事情を文書でご説明しておりますが、今後再開できる時を判断し、取り組んで参ります。

目標計画については、次の項目について月毎に設定し、P D C A方式により取り組んだ結果、以下のようになりました。

項 目	2020年度	
	目 標 値	実 績
会員数（人）	317人	325人
就業率（%）	87%	76.3%
就業延べ人員（千人日）	27.0千人日	24.8千人日
契約金額（百万円）	149.3百万円	154.0百万円

財政運営の状況につきましては、2020年度の請負・委任業務の受託件数は3,569件で契約金額135,391千円（対前年度比99.4%）とコロナ禍でしたが、前年度とほぼ同様の実績を上げることができました。また、派遣事業については、5月の緊急事態宣言発令により介護施設利用者の大幅減少のため運転業務が一時休止となりましたが、受託件数は12件で契約金額18,621千円（対前年度比105.3%）となりました。

## 2 会員状況

### （1）会員

会員拡大を本年度の重点目標として取り組みました。年度末の在籍会員数は325人（男性201人、女性124人）で、前年度に比べ7人の増となりました。新規入会者は48人（男性27人、女性21人）、退会者は41人（男性26人、女性15人）となっています。

### （2）就業

会員の拡大に努めるとともに、行政、事業所、一般家庭からの就業機会の開拓に努めました。選挙に伴う看板の設置状況の確認業務、施設管理、マイナンバー登録事務補助等新たな業務の受託がありました。就業機会の提供にあたっては、ワークシェアリングに配慮しました。

年間を通しての就業会員数は325人中248人となり、就業率76.3%と前年度を1.4ポイント下回りました。男女別の就業率をみると男性73.6%、女性80.6%と女性の就業率が高くなっており、職群別でみると草刈・草取などの一般作業群が圧倒的に多い状況となっています。

また、ボランティア活動を通して公共施設の清掃、除草、剪定作業を行い、地域社会の活性化や環境美化に寄与し、就業を通して生きがいの充実及び社会参加の推進に努めることとしていましたが、天候不順により残念ながら中止としました。

本年度はコロナ禍のため就業に影響が生じ、とりわけ介護施設の一時業務停止や公共施設の一時閉鎖などにより運転業務、清掃業務に大きな影響を受けました。

## 3 事業実績

### （1）受注

請負・委任分野の受託件数は3,569件で対前年度比93.5%、件数にして249件の減となりました。これを受注件数でみると、職群別では、除草、清掃、草刈等の「一般作業群」が全体の63.7%、剪定等の「技能群」が19.6%、福祉家事援助、家庭内清掃等の「サービス群」が8.2%となっており、この3職群の合計で総受託件数の91%余りを占めている状況となっています。昨年度と比較し

て一般作業群は△211件、管理群△12件、サービス群△17件といずれも減となりました。

また、契約金額を前年度比でみると、サービス群では503千円、管理群では621千円の増となる一方、一般作業群では1,532千円の減となりました。

発注者別の構成比では、公共事業分が64,187千円、民間事業分が71,203千円と、年々公共事業のウエイトが高まってきています。

派遣事業は、受注件数では前年度と同じでしたが、契約金額は対前年比で944千円増となりました。

## (2) 会員拡大

① 入会説明会は随時事務所にて開催しました。前年度まで町内会単位での出前説明会活動に取り組んできましたが、各会場とも参加者が低調であったことからネットワーク事業普及による会員拡大に努めることとしました。18町内会に声掛けをして、事業化する予定で取り組んできましたが、コロナ禍により地域での話し合いが全くできない事態が年度末まで続いたため、ネットワーク事業による会員拡大は成果につながりませんでした。

### ② 口コミによる会員獲得

会員紹介による入会は6名となりました。これにより3名の会員がポイント表彰規定により表彰されることとなりました。近所の知り合いの方やサークル仲間等会員のライフワークを通してのつながりから入会いただいています。引き続き皆様の声掛けをお願いします。

### ③ 定期的な会報の発行及び新聞折込みへの掲載

会報「シルバー府中」の発行を2回行い活動状況、事業内容、会員募集等の広報に取り組みました。また、新聞折込みのチラシに2~3か月毎会員募集の掲載を行いました。

### ④ 理事・役員による会員拡大

会員拡大強化月間に合わせ10月に理事・監事及び職員によるチラシ配布活動を行う予定でしたが、コロナ禍のため本年度は中止としました。

### ⑤ 趣味の会等の創設

一昨年、就業だけでなく趣味を通して会員同士及び一般愛好家との親睦と健康増進を目的に卓球台を事務所2階に2台設置しました。本年度は2年目を迎え、利用者も定着したことから卓球同好会へと移行することとし、6名が名誉会員として入会いただきました。

## (3) 多様な就労の推進

### ① 受託事業による就業機会の提供

請負・委任による就業機会の提供・拡大を図るため会員の希望に沿った就業先の確保や、発注者の多様なニーズに応えられるようPR活動するため、

企業訪問の予定でしたが、コロナ禍で困難となりました。しかし、市の産業関係室の創設による企業とのマッチングの窓口ができたことにより、2業種の経験者の照会をいただきましたが、残念ながら就業には結び付きませんでした。

#### ② 町内会や各種団体との連携

シルバーネットワーク事業の立ち上げにより、その地域ごとに元気な高齢者が支え手となる仕組みにより会員拡大を目指しましたが、事業への理解は得られたものの、今後どのように進めていくのかどのようにすれば事業化できるのかについてはコロナ第3波襲来により話し合いの場が持てなくなったため、本年度は意向調査のみで終えることとなりました。

#### ③ 派遣事業等による就業機会の提供

企業などの人手不足分野において、シルバー派遣への期待が高まっていることは、県内の雇用情勢のデータからも伺えます。派遣事業は県シ連が派遣元となり、各拠点シルバーは実施事業所として実務を担う立場から、企業訪問等により開拓に取り組んだ結果、1事業所において再契約となりました。

今後は、就業機会の拡大につながるよう産業関係室との連携を積極的に図る取組みを検討します。

### (4) 適性就業の推進

会員への公平で適正な就業機会の提供に心掛け、グループ就業やローテーション就業を推進し、既存の就業状況を見直すと共に新規契約締結時に法令順守に努めました。また、未就業の会員に対しては新たな就業の場があった時には、積極的に就労を呼びかけましたが大幅な就業率の向上には至りませんでした。

### (5) 安全就業の推進

就業にあたっては、安全就業を最重要課題として取り組み、安全委員による就業現場への安全パトロールを実施し、安全チェックリストに基づき就業状況の確認と安全指導、抜き打ちパトロールを行うなど、事故の未然防止に取り組みました。また、交通安全講習会を秋と冬の2回開催し、57名の参加をいただきました。

しかし、2020年度の事故発生状況は、物損事故が2件（前年度4件）、傷害事故が2件（前年度2件）発生しました。事故を防ぐには会員一人ひとりの細心の注意と、安全に対するさらなる自覚が求められます。

また、会員の安全意識の高揚を図る「安全就業標語」の募集には、56作品の応募がありました。

## (6) 就業に必要な知識や技能の習得のための講習

会員の仕事への新たなチャレンジあるいはスキルアップを目的として剪定講習会を開催しました。「密」を避けるため人数制限を5名に限定して開催し、新規会員3名と技能向上を図る会員2名の参加がありました。今後も機会ある毎に取り組んで参ります。

尚、昨年に引き続き接遇研修会を2月に開催する予定でしたが、コロナ禍により中止としました。

## (7) 事業推進のための諸活動

### ① 就業中の安全対策

安全就業基準に基づき、事故を未然に防止するための安全対策や発生した事故を検証する一助として会報の発送に合わせて「安全就業だより」を発行しました。県内の事故事例のほか当シルバーで起きた事案の課題と未然防止策について取りまとめて、就業に活かしていただく取り組みを行いました。尚、例年連合主催の安全講習会が開催されていましたが、コロナ禍で中止となりました。

### ② 安全パトロール

過去に事故の事案のあった草刈及び剪定業務の現場を中心に、安全委員による巡回を実施し、安全に対する処置及び身なりの点検と注意喚起を行いました。

### ③ 普及啓発活動

センター事業への理解が得られるよう高齢者に対し、基本理念や事業の内容をお知らせしました。具体的には、会報の発行、ポスターの掲示、チラシ配布、ホームページへの掲載、諸活動時の報道依頼等を行いました。コロナ禍でネットワーク事業を進めることができなくなりましたが、意向調査で協力してもいいと名前を記入いただいた方にはその事情説明を文書で送付いたしました。

## 【事業報告の附属明細書】

事業報告の附属明細書については、2020年度事業報告においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条に定める「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありませんでした。